

聖書日課 『からし種』 2024.4.21-4.28

<p>4月21日 (日) 箴言 4章</p>	<p>「何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある」(23節)。箴言は「知恵」と「分別」の大切さを繰り返し説く。「分別」とは「第一にすべきことと後回しにすべきことを区別すること。私たちは「第一のものを第一に」選び取ることができているだろうか。「自分は分かっている！」とおごる「愚者」にならないように、今週も主に御言葉を求めることから始めよう。</p>
<p>22日 (月) 箴言 5章</p>	<p>「よその女の唇は蜜を滴らせ／その口は油よりも滑らかだ。だがやがて、苦よもぎよりも苦くなり／両刃の剣のように鋭くなる」(3-4節)。「よその女」とは異教徒の女性を意味するようだ。異教徒との結婚で苦勞した経験がこのような知恵となったのだろうか、主イエスならどのような知恵を語られるだろうか。異なる者の出会いの中に豊かに働かれる主を見つめたい。</p>
<p>23日 (火) 箴言 6章</p>	<p>「戒めは灯、教えは光。懲らしめや諭しは命の道」(23節)。人間は悪の誘惑に弱い。最初はほんの小さな穴が、やがてその人の命すべてを飲み込む大きな滅びの穴となる。また「自分は正しい、間違っていない！」という思いがどれだけ視野を狭めているか。「弱く、愚かな自分」には主の戒め・教え・懲らしめ・諭しが必要であることを、一日の初めに覚えたい。</p>
<p>24日 (水) 箴言 7章</p>	<p>「わが子よ、わたしの言うことを守り／戒めを心に納めよ」(1節)、「それをあなたの指に結び、心の中の板に書き記せ」(3節)。主イエスが歩まれた道は私たちを神への信仰に導く大切な教えに満ちている。十字架の前に立つ時、「どうして死んでよかろうか。翻って生きよ」との言葉が響いてくる。その主の語りかけを、指に結び、心に刻んで、一日を始めたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2024.4.21-4.28

<p>25日 (木)</p> <p>箴言 8章</p>	<p>「銀よりもむしろ、わたしの諭しを受け入れ／精選された金よりも、知識を受け入れよ」(10節)、「慈善の道をわたしは歩き／正義の道をわたしは進む」(20節)。どうかすると「銀や金」に心が傾き、主の諭しと知識に背を向けがちな私たちへの言葉。今日わたしが歩む道が、少しでも主の歩まれた「慈善と正義の道」に近づき、重なるものとなるように。</p>
<p>26日 (金)</p> <p>箴言 9章</p>	<p>「不遜な者を叱るな、彼はあなたを憎むであろう。知恵ある人を叱れ、彼はあなたを愛するであろう」(8節)。箴言が「知恵ある人」と呼ぶのは「自分の愚かさを知り、主を畏れる人」。自らの愚かさを知る人は、自分をきちんと叱る言葉を愛する。なぜなら主の諭しはその人を主の愛に近づけるから。愛をもって叱る主の言葉に心開いて、受け取る信仰をいただきたい。</p>
<p>27日 (土)</p> <p>箴言 10章</p>	<p>「憎しみはいさかいを引き起こす。愛はすべての罪を覆う」(12節)。この箴言は第一ペトロ4:8に引用されている。「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです」。「愛」は神からの「恵みの賜物」。わたし自身は愛に乏しいけれど、神に祈り求めるとき、神は「恵みの賜物」として「愛する力」を与えてくださる。あきらめず主に祈り求めよう。</p>
<p>28日 (日)</p> <p>箴言 11章</p>	<p>「正しい人の祝福によって町は興り／神に逆らう者の口によって町は滅びる」(11節)。ソドムとゴモラに十人の義人がいなかった(創19)、それが問題でこの町は滅ぼされてしまった。私たちにとっても大切なことは「正しい人」になること。そこに注がれる祝福は私たちの町を高くすることを覚え、み言葉に根ざして謙虚に生きる者となろう。</p>